

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201876		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	ジョイ村松 グループホーム		
所在地	静岡県清水区村松原1丁目7-16		
自己評価作成日	令和 5年 8月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274201876-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274201876-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 8月 10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月2回のイベント重視し季節感を感じられるフロア作りを力入れています。他にも、全スタッフが色々なことを学べる機会を多く取るようにしています。苦手な分野や興味のある研修に率先して参加できるようにしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の9月の水害で他事業所に半年以上避難し職員も利用者も大変な思いを強いられた。修理が終わり施設はリフォームされ明るくなったが、資料が流されたり、機器を買い変えたりとまだまだ忙しい日々をすごしている。管理者は、利用者本位の支援をし、職員には楽しく働いてもらいたいという思いで、利用者寄り添って穏やかに過ごせるよう尽力している。また、挨拶や対応はしっかり行ってもらいたいと日々職員教育をしている。月に2回のイベントは職員に計画実行してもらいみんなで楽しめるよう工夫し、日中、体を使い、熟睡してもらえるように働きかけている。防災に関しては法人と行政と連携して、近隣の住民とも協力体制を整えて今後備えようと努力している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・安全に暮らすことができ今までの生活に近い暮らしができるよう、アセスメント、実践しています。	事業所の理念は「安心、安全に暮らすことができる」で開設当初の職員で決め、理念に基づいた目標を職員が自分で考え設定し、1年に1回反省と評価をしている。理念を達成するために担当職員制を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスを利用し交流を深めている方がいます。 コロナも落ち着いてきているため友人の方の面会も良しとしています。	自治会に加入して、運営推進会議の議事録を回覧してもらっている。自治会長は日頃から施設との繋がりを意識され、何かあると声かけをしてくれる。隣の中学の職業体験を受け入れ、中学校は運動会に席を設けて招待してくれるなど良好な関係性を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ、去年の台風にて営業不可であったため交流はできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	台風の影響にて開催することができず、村松再開し書面にてお伝えしています。8月は開催する予定で準備しています。地域の方にも回覧して頂き意見を求めるようにしています。頂いた意見は次回の会議にて議題にあげさせていただきようとしています。	コロナ禍や水害で施設が使用できず、行政に相談して書面開催を行っていた。議事録は家族と地域の方に閲覧してもらい、意見を求めている。以前の対面開催時には、3~4家族が参加してくれていた。	今後は対面開催を再開し、議事録の内容は報告を増やし、質疑応答を載せてサービス向上に活かせるよう期待します。すでに地域の人と協力関係があるので、運営推進会議にも参加してもらえよう声掛けを希望します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自自会長さんとはお話をすることが多く、災害の時なども協力していただきました。その後の台風や大雨の時も気にかけて下さり助けていただいています。	地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加し、日頃から入居者の問い合わせがある。市や包括支援センターから研修の案内がメールで届き良好な関係性を築いている。昨年の水害被災後、市からの提言で水害のマニュアルを再作成した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ命のリスクのある方は4点柵、つなぎ服の対応を施行しています。転落や転倒のある利用者様には足踏みセンサーのレンタルをお願いしている方もいます。防犯上玄関のカギは施錠し内カギは開放しています。	指針、マニュアルは整備されている。事業所の委員会のメンバーは職員全員で構成され、3か月に1度、委員会を開催し、提案については法人でも検討されている。研修は年に2回行われ、「身体拘束とは」と、ケース検討をしている。	

静岡県(グループホームジョイ村松)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回スタッフ会議内で話し合いを行い報告、通報の義務があることや言葉の暴力による虐待もあることを伝え勉強会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けることができなかったため今後につながる機会を設けようと検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類の交わし等は対面にて行うようにしています。説明にて理解していただき疑問点や不安に思っていることがないか確認するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	おたよりにて意見を設けるようにしたり、直接、ご家族様から携帯に連絡が入るようにしています。利用者に対しては担当スタッフが聞くなど聞いた内容についてはスタッフ会議にて話をするようにしています。緊急性のあることについては、その都度、申し送りし改善するようにしています。	利用者の担当職員が月のお便りの利用者の近況を個別に記入し家族に送付している。以前は写真付きのお便りも同封していたが、水害による被害でデータの使用が困難となり再度作り直し、家族に送付する準備をしている。家族からは意見や要望が多く寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1度のスタッフ会議内で意見を言える場を設け、その都度、全スタッフで考え反映するようにしています。	職員会議は、毎月施設長会議の終了後、職員が集まれる日に全員参加で開催している。職員には自発性を持ってもらえるように企画などはまず職員に行ってもらい管理者が助言するようにしている。職員からの要望はリーダーを通して管理者に届き、運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全スタッフが責任をもって行動ができるよう居室担当を設け、居室内の整備など徹底するようにしています。それ以外にも役割担当を設け行動するように徹底しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニ・チャームさんへオムツの研修やリハビリパークへ研修行く機会を設けています。リーダーには病院の講習会へ一緒に参加していただくようにしています。複数の研修会へ参加し研修記録簿を作成していただくように指導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	移乗の方法を協和医科器械さんと連携し勉強会を実施しています。スタッフは全員参加とし色々な福祉用具を体験させていただき使用方法をその都度自ら体験させていただき、利用者様に何が 필요한のか指導していただいています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に困っていること、不安に感じていることを利用者様に確認を行い、少しでも不安点が改善できるよう傾聴するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望に少しでも近づけるよう話し合いを行い、関係性を築けるようにしています。利用者様の変化にて必要なものが出てきたときはその都度、話し合いを行い必ず相談するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過剰支援にならないよう、必要なサービスの提供をするようにしています。必要に応じて、その都度提案するようにしています。実費ですが下肢筋力の低下防止、意欲の低下を少しでも軽減できるようデイサービスの利用ができることも伝えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者によってスタッフの対応に差が出ることがあります。スタッフのほうが立場が上になっているスタッフもいますので、その都度、注意するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様ご家族に対して馴れ馴れしくなっているスタッフもいるため、その都度、注意はしているが管理者不在時に対応しクレームに繋がってしまうケースもあるため、再度、指導します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や受診等は行きつけのある利用者様は行きつけを利用しています。	理美容院や受診は家族が継続を希望して連れて行ってくれている。コロナ禍でもできるだけ感染対策をして継続して連れて行ってもらった。自費で通っているデイサービスで知り合いと交流する機会がある。	

静岡県(グループホームジョイ村松)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアへの開放、デイサービスの利用。 午後はレクリエーション等を行い全利用者様が楽しめるようにしています。 席替えも適時行い、色々な利用者様とお話ができるよう検討しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になった利用者様のご家族様から布団やPTイレ、衣服を寄付していただいたり、テレビを寄付していただいたこともあります。 ほとんどの方が看取りなので関係が切れてしまいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のペースにて支援させて頂いています。どうするか、どうしたいかは利用者様に決めていただくよう声掛けしています。	利用者が食べたい物や希望を言うってくれるので、誕生日のケーキやお寿司、馴染みの店の食べ物等希望に添えるような支援を行っている。常に利用者の声に注力し散歩に出たいという希望にも添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	女性利用者様が多いため、食器拭き、洗濯物畳み、廊下掃除を手伝っていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かくカルテに記入し体調変化や特変のある方は利用者ノートへ記入し全スタッフが共通認識できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身状況に応じた支援ができるようスタッフ内で話し合いを行い、用具が必要な時は福祉用具業者さんへ相談しモニタリングしていただきアドバイスもらうようにしています。場合によっては専門の方からご家族様へ説明していただいています。	モニタリングは勤務している職員で都度行っている。職員会議で利用者の担当職員を中心に介護計画書の内容を検討し、管理者が見直してケアマネジャーが計画を作成している。ケアマネジャーは週に1回勤務し職員と意見交換を行い、担当職員は介護計画書の内容を把握してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の徹底や、居室担当がケアについて考えスタッフ会議内で相談するようなばを設けています。全スタッフで共有し統一介助ができるようにしています。		

静岡県(グループホームジョイ村松)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ、訪問美容、訪問歯科、訪問診療、訪問看護を導入しており利用者様やご家族様が必要に応じて利用できるようにしています。そのほかにも、デイサービスの利用も適時利用できるようお願いさせていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については知識が乏しく今後、学ぶ必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある方は、ご家族様と相談し直接先生とお話ができるようお願いし薬の調整や必要な薬を追加処方して頂けるよう支援させて頂いています。状態によっては通院同行させて頂いています。	入居前からかかりつけ医を受信している利用者は家族が対応している。協力医は月2回の訪問診療と利用者の体調については24時間相談ができる。また、他科の初期対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時はすぐにDrコール行い、訪問看護師とも連携とるように適切な看護をしていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にDrよりグループホームへ戻れる条件を聞かれるため医療行為がなければと伝えていきます。ご家族様の要望も聞き、極力早期退院ができるよう病院関係者の方とも連携とれさせて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療を利用している利用者様は全員看取り希望であるためご家族様、Drと話し合いをし訪問看護師とも連携取るようにしています。最期はご家族様が付き添えるよう早期異変に気付けるようスタッフ内でも話し合いをしています。	入居時に事業所の方針を説明し、同意書を得ている。重度化した時には医師、家族と話し合い、病院へ転院を希望する方もいるが、本人、家族の意向に沿って看取りも行っている。職員は看取りの経験があり、更に実践で活かせるよう学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の研修にスタッフ3名が受講し心肺蘇生やAEDの使用方法を指導してもらいました。緊急時は施設長による24時間対応を取り急変時はすぐDrコール行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度避難訓練を行い、避難地まで安全に避難ができるよう近隣の中学校へも協力していただき対応させていただいています。前回の台風の床上浸水でも利用者が誰一人水濡れなく安全に避難することができ近隣の方の協力も得られました。	年に2回火災地震想定で日中、夜間の訓練を行っている。訓練の時は中学に避難する想定で行っている。地域の住民の避難地として受け入れを行い、備蓄を整備しているが、昨年の水害で被災し関連事業所に半年以上避難生活を経験した。	水害で経験したことを訓練に反映し、対策を行い、備蓄は台帳を作成して管理し万が一に備えられるよう希望します。停電になった時の備えを法人と一緒に考えて早めの対策が取れるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだまだスタッフにてバラつきがあります。新人スタッフへの指導も途中なので全スタッフで再度プライバシーを侵害しないよう勉強会を行う必要がある。	職員の中には利用者への言葉遣いや接し方に差があるので、施設長やリーダーが都度指導し、研修で事例をあげて話し合いをしている。また、職員同士でも気づいたことを連絡ノートに記入して共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるときと、スタッフ本位の時があるため利用者様が自己決定できるよう再度促していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本位の時が多々あります。利用者様にもっと寄り添える介護ができるよう再度促します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の使用、カラーやパーマをしたいという利用者様もいます。時にはマニキュアを塗りたいという利用者様もいますので、その都度、支援させていただき、スタッフがすることはすぐに対応させていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月のイベントのほかに、利用者様との会話の中で食べたいという食事を提供できるようデリバリーしています。後片付けや、準備、利用者様にもお願いしています。	昼食は給食会社から副食をとり、ごはん、みそ汁を作っている。食事は職員も利用者と同じものを同じテーブルで食べている。朝夕の献立は利用者の希望を聞いてメニューを考え手作りしている。利用者の機能維持を心掛け、能力に応じた食器拭きや調理の手伝いを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない利用者様にはお茶の他に好んで飲まれる物を提供させていただいています。食事摂取の難しい方は無理なく摂取できるものを提供し嫌にならないよう支援させていただいています。		

静岡県(グループホームジョイ村松)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い、極力利用者様に行っていただくよう声掛けさせて頂いています。 適時、訪問歯科の先生にも口腔内のチェックをして頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子や排尿状態に応じてトイレ誘導の時間を変更し、なるべくトイレで排泄ができるよう支援させて頂いています。 バルーン留置されていた利用者様も自発排尿ができるようになりバルーン抜去しオムツ対応しています。	排泄の記録を取り、個々のパターンを把握してトイレ案内を行っている。自立の人には見守りでの対応を行い、安全面を考慮して、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。職員の支援もありバルーンより自発排尿のオムツ対応への例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は利用者様に牛乳飲んでいただいたり腹部マッサージを施行し極力、下剤を使用しないよう支援させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前入浴のため時間を選ぶことはできないが入浴はご本人様の希望にて決めていただいています。入浴を楽しんで頂くためにも、入浴剤を入れたり等の工夫をしています。	週に2回、午前中に入浴支援している。現在の利用者は拒否する方もなく、声掛けをすると、着替えを選んで浴室に向かわれる。入浴剤は2～3種類用意し自ら選択出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中体を動かしていただき日中寝る時間を減らすよう声掛けさせて頂いています。 今では睡眠導入剤を内服する方がいない状態になりました。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する知識についてスタッフの知識が乏しいため、症状の変化に気付くことが遅れてしまうことがあります。今後、勉強会を行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月2回必ずイベントを行い、四季を楽しんでいただくようにしています。利用者様が楽しめるようなイベントを考え8月には周りの方にも協力していただきバーベキューを予定しています。握りずしを食べたいという声が上がったため、業者を呼び施設内で握りずしの提供をしました。		

静岡県(グループホームジョイ村松)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様が外出に連れて行ってくださったり、近隣を散歩したり、七夕祭りへ行くことができなかったため、玄関先に笹等を飾り外に出るきっかけを作るようにしています。コロナも落ち着いてきているため外食も検討しています。	通常は事業所の周辺を職員と一緒に散歩したり、ウッドデッキを活用して外気浴を行う支援に取り組んでいる。利用者の希望でドライブに出かけたり、コロナ禍で控えていた外食を今後は様子を見て実施していく。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物盗られの症状がある方もいますので金庫にてお金の管理を行い、必要に応じてスタッフが一緒に買い物へ行くよう支援させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へお手紙を書かれる利用者様がいます。電話の希望のある方は電話しお話しさせていただくようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がでるような飾りつけを行っています。利用者様にも協力していただき飾り物を作っていただいたり、利用者様が作ってくださった作品を掲示するようにしています。	水害後、事業所はリフォームされ、明るく、清潔感があり、職員はコロナ感染の経験を活かして、手すりやドアノブ等をこまめに消毒し、定期的な換気も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の居室にて井戸端会議『ばーば会』を行う利用者様もいます。日中はフロアにて過ごされる方が多く、スタッフと談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使用しているもの、使い慣れたものを持ってきていただくようご家族様へ声掛けさせて頂いています。住み慣れた部屋に近づけるよう居室内も工夫させていただいています。お花の好きな方にはお花を飾りご家族様の写真を飾られている利用者様もいます。	壁紙、カーテン等を水害後に新調して風通しが良く被災によるストレスを感じさせない環境を整えている。入居前に使用していた物に近い物を持ち込み、利用者それぞれに個性のある居室づくりが出来るよう支援している。好きなテレビ番組を居室でみるように画面が大きいTVを持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前は表札やトイレなどが分かるようにしていたのですが災害にてなくなってしまったので今後、皆様で作ろうと考えています。		